

基本理念

目的（存在理由）

社会への貢献

わたしたちは
社会に役立ち、人々の心や暮らしを豊かにし、
よって社会に貢献することを目的とします。

基本的価値観（不変の主義）

1 開拓の精神

わたしたちは、失敗を恐れず、情熱を持って、
未開の地（新しい分野）に挑戦することを誇りとします。

2 不断の努力

わたしたちは、弛みない努力によって、
困難に打ち勝ち、目的の実現に至ることを喜びとします。

3 誠実な意志

わたしたちは、わたしたちを支える人々*に対し、
揺らぐことのない誠実な意志によって行動します。

*「わたしたちを支える人々」とはステークホルダー
（お客様、サプライヤー、株主・投資家、従業員とその家族など）を指します。

株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに第44期（平成24年4月1日～平成25年3月31日）
年次報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当連結会計年度における日本経済は、海外経済が昨
年来の減速した状態から徐々に持ち直す中、新政権や日
銀による景気回復策への期待感から年度末にかけて大幅
な円安や株価回復が進むなど、景気は回復基調に向かい
つつあります。その一方で、急激な円安による輸入資材や
エネルギー価格の上昇が懸念されるなど、先行き不透明感
は拭えない状況です。

ユニットハウス業界においては、東北地方を中心に公共
事業や民間建築等に伴う需要は増加したものの、本格的
な復興需要は当初の想定より遅れが出ています。一方、関

東地方を中心に設備投資が回復し、需要も緩やかに伸び
ています。

このような状況の中、当社は2011年度に引き続き、仮
設現場事務所や店舗、宿舍など、被災地の需要に優先的
に応えるとともに、生産能力の増強を図り、全国的なレンタ
ル・販売の需要増加に対応してきました。

当社の事業ポリシーである「必要な時に必要なだけ必要
な空間を必要な設備とともに提供する」を実践することで、
当社のユニットハウスは、従来の仮設建設市場だけでなく、
ここ数年来開拓を続けてきた建築市場、不動産市場にお
いてもその優位性を十分発揮できるものと確信しています。
当社のコア技術である“建築の工業化”をさらに高めていく
ことにより、新たな市場開拓を推進していきます。

今後とも創業当時から受け継がれてきたフロンテアスピ
リッツ（開拓の精神）を原点に、社会に貢献する会社を目指
し、失敗を恐れず情熱をもって活動していきます。

当連結会計年度（平成24年4月1日～ 平成25年3月31日）の業績について

2012年度は、震災復興需要の旺盛な東北地域をはじめ
他地域においても高い需要に支えられ、ユニットハウスの
レンタル・販売ともに好調に推移しました。2011年度から
取り組んでいるエアコンシステムや配電システム（電気配線
と電気設備をユニットハウスと一体化したものは、ユニット
ハウスの付加価値を向上させ、お客様からも好評をいただ
いています。

また、トランクルームについては、新たに51店舗出店し、

期末店舗数は154店舗となりました。さらに、当社直営の
展示場を18店舗出店し、期末店舗数は116店舗とするな
ど、販売チャネルの拡充に努めてまいりました。

当社では、旺盛な需要に対応するため、2012年度、新
潟工場や姫路工場の生産ラインを増設し、供給体制の確
立に努めました。しかしながら、需要のピーク時には供給が
間に合わないケースも見られたため、今後の需要拡大を見
込み、新たに工場用地を取得、つくば工場として2013年
中の本格稼働を目指して準備を進めています。

上記の結果、当連結会計年度の売上高は24,095百
万円（前年同期比17.6%減）となりました。

利益面においては、営業利益3,364百万円（前年同期
比31.9%減）、経常利益3,438百万円（前年同期比29.9
%減）、当期純利益2,069百万円（前年同期比16.2%減）
になりました。

なお、前年度実績に東日本大震災の仮設住宅建設の
売上高が含まれているため、前年同期比は減少となりまし
たが、おおむね期初の計画に沿った実績となっています。

今後とも、リユース可能なユニットハウスの特長を活か
し、期間限定で空間を必要とするニーズを開拓し、業績の
拡大に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指
導ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成25年6月

代表取締役社長 長妻貴嗣